

- ¥title{数値計算演習課題}  
¥date{19.10.05}  
¥author{--Linuxの基本操作(II Shell)--}

## ▼ Coin.c

- ▼ emacsでのCの整形(汚いという批判もありますが. . . )

- C-c C-q
- あるいはindent Coin.c

- ▼ bob% cat Coin.c

- #include <stdio.h>  
#include <stdlib.h>  
#include <math.h>

```
int
main(void)
{
    int          i, j, up;
    int          m, n;
    double       t0, t1, t2;
    double       toss, disp;
    m = 3;
    n = 10;
    t0 = t1 = t2 = 0.0;
    for (j = 0; j < m; j++) {
        up = 0;
        for (i = 0; i < n; i++) {
            toss = (double) random() / RAND_MAX;
            printf("%10.5f %10.5f\n", toss, floor(toss +
0.5));
            up += (int) floor(toss + 0.5);
        }
        printf("%4d\n", up);
        t0 += 1;
        t1 += up;
        t2 += up * up;
    }
    disp = sqrt(t2 / t0 - t1 / t0 * t1 / t0);
    printf("OUTPUT: %5d, %10.5f\n", n, disp);
    return 0;
}
```

- gcc -lm -o Coin Coin.c

## ▼ 課題

- コイン投げのプログラムを改良し、一回あたりに投げるコインの数nとその試行回数mとをscanfで読み込み、nと分散を表示するプログラムを作れ。
- INPUTファイルを用意し、./a.out< INPUTとしてコイン投げを実行せよ。
- n=10から100までを10刻みで出力するshell scriptを作れ。
- 上記のshell scriptを修正して、sedで入力ファイルを変形し、Coin投げのプログラムに食わせて出力をresult.allに追記するようにせよ。
- プログラム、入力ファイル、シェルスクリプトを変更し、コインの枚数と分散を出力するプログラムに仕上げろ。試行回数mを10000, n=10-500として、結果を関連するファイルとともに提出せよ。
- Piの計算、Mandelbrotについてもコイン投げと同様にshellで計算を実行していくように改良せよ。Piでは試行回数とPiの値、Mandelbrotでは分割数を入力にして、出力が(x,y,count)となるようにせよ。

## ▼ 課題の解説

- unixの基本コンセプトである「できるだけあるものを利用しよう」を実現する手法がフィルタモデルである。これはプログラムが入力をどこから受け取り、どこへ出力するのかを、ユーザーが柔軟に操作できるような枠組み。unixでは多くの小さくてシンプルなユーティリティを提供し、それぞれが引数によって柔軟に調整しながら、ひとつの仕事をつましくこなす。複雑な仕事は、これらのシンプルな操作を組み合わせておこなう。
- 複雑な操作の組み合わせを「フィルタモデル」が担う。また、一度作った一連の複雑な操作をコンピュータに覚えさせるよう、「シェルスクリプト」が用意されている。
- 簡単なコイン投げのプログラムを修正して、この一連のunixの枠組みが利用できるように演習をおこなう。

- ▼ UNIXのフィルタモデル
  - `ls -l`
  - `ls -l > files.txt`
  - `sort -r < files.txt`
  - `ls -l | sort -r`
  - ▼ `>: cmd > file`
    - `cmd`を実行し、出力を`file`を書き込む。 `file`に何があっても消して、上書きするの  
で注意。
  - ▼ `>>: cmd >> file`
    - `cmd`を実行し、出力を`file`の最後に追記する。
  - ▼ `<: cmd < file`
    - `cmd`を実行する際に、`file`から入力を読み込む。
  - ▼ `|: cmd1 | cmd2`
    - `cmd1`を実行し、出力を`cmd2`の入力に渡す。
- ▼ shell script
  - ▼ パスを通す
    - `set`
    - `env`
    - `setenv PATH .:$PATH`
    - `echo $PATH`
  - ▼ シェルスクリプトの動作の基本
    - ▼ editor(emacs)でテキストファイル`allcalc`を作成
      - `<bob> cat allcalc`
      - `#!/bin/tcsh -f`
      - `echo "START calc" > res.all`
    - ▼ ファイル`allcalc`に実行権限を与える
      - `ls -l`で確認
      - `chmod +x allcalc`
    - ▼ `allcalc`の実行
      - `./allcalc`
  - ▼ シェルスクリプトの文法
    - ここでは課題をこなすのに最低限必要な文法だけを記す。  
<http://echoes.jp/saito/csh.html>  
には適切にまとめられている。
    - ▼ `@: 数値演算`
      - `@ trial = 10`
      - `@ trial += 10`
    - ▼ `while`
      - `while (${trial}<501)`
      - `echo "#TRIAL" ${trial} >> res.all`
      - `@ trial += 10`
      - `end`
- ▼ sed, awk
  - ▼ sed
    - 文字の置換は `s/aaa/bbb/g` で。  
`sed "s/#TRIAL/${trial}/g" INPUT.orig`
  - ▼ awk
    - `awk -F: '{ print $2 }'`
    - `grep OUTPUT res.all | awk -F: '{print $2}'`
    - `printf("OUTPUT: %5d, %10.5f\n", n, disp);`  
などとしてプログラムの中でマークをつけておく。
- ▼ process
  - `history`
  - ▼ `ps`
    - `ps aux`
  - ▼ `kill -TERM PID番号`
    - だめなら、`-HUP`、`-KILL`を試す。
  - `jobs`
  - `fg, bg`